

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和元年 10 月 29 日 NO.7

(写真は 10 月 3 日撮影)



「子どもの学び 教師の仕事」

～ 師がく指導者からのメッセージ ～

見附市教育委員会 師がく指導者 熊谷 正美

さて、問題です。次のアルファベット 9 文字を、10 秒で憶えてください。

HKNSNBSTN どうでしょう。この文章を読んでいる方の何人が、真剣に憶えようとしたでしょう。

普通の人間は、機械ではないのでコピー機のように、脳裏に転写することはできません。

しかし、この 9 文字を 3 文字ずつに分け 3 番目の 1 文字を、それぞれ先頭にもってきたらどうでしょう。

NHK BSN NST 新潟県人には、簡単な記憶問題になったと思います。

この事例でわかることは、記憶のストレスを下げるには、順番を入れ替えるという「作戦」とテレビ局の略号という背景となる「知識」が必要だということです。

子どもたちに「生きた学び」「深い学び」を実現させるために「作戦」を考案することができるような、多くの体験を積みませたいものです。

では、「知識」を増やすためにはどうしたらよいのでしょうか。

例えば、九九を機械的に覚えさせるのは、ある時期必要とは思いますがピーマンや、パセリを栄養価が高いからといって、口に押し込むことに似てはいないのでしょうか。5 + 5 は繰り上がって一の位は 0。0 + 5 は 5。たし算の「知識」に裏付けされて「5 の段の一の位は 5 と 0 が交互になる」のであって、「ゴイチガゴゴニジュウ……」と無意味に覚え込ませるのは、子どもにとって拷問です。

「知識」を増やそうと、やり方を間違えると「ツケ」がまわってきます。「学びからの逃走」が始まります。

背景となる「知識」の上に、新たな「知識」が積み上げられていくのです。これを授業の中で実現するためには、子どもの今もっている「知識」をしっかり把握し、そのどこに新たな「知識」を積み上げられるのかを考えてほしいのです。

子どもの学力分析と教材の研究が必須なのです。

巻頭写真に寄せて …シャイン マスカットを食べた！？…

社会科の副読本「わたしたちの見附市」の改訂作業を上北谷小の川崎校長先生を中心に6名の先生方と取り組ませて頂いております。農家の人々の仕事で、ぶどう農家の仕事は本明町の農家で学びます。本明町は上北谷小学校区ですが、川崎先生から「子どもたちとぶどう農家の見学に行き、シャイン マスカットを食べさせてもらい、お土産も頂き、給食時に全校で食べた」と聞きました。地域学習を五感で学んだ姿に感心をしました。いえ、うらやましかったが本音です。さて私は、師がくで訪問する学校の地域を歩くことも、子どもを知る第一歩と思い、時間を見つけ散策をします。葛巻町でも、ぶどう農家が何軒もあり、巻頭写真もその一軒です。本明町のお地蔵様は、ヘルメットを被っていました。また、宮之原町の神社の大ケヤキは、圧巻です。地域は、学びの宝庫です。皆さんもぜひ、学区内を歩いてみて下さい。



本明町：お地蔵様



宮之原町：諏訪神社



葛巻町：ぶどう棚

コラム 将来の昆虫博士たちがいました

＝秋晴れの名木野小で、素敵な姿を発見する＝

10月9日に、ノーベル賞の化学部門の発表があり、リチウムイオン電池の吉野彰氏が受賞をしました。日本人の受賞は、誠に嬉しいものです。

この吉野氏が、マスコミに「この道に進むきっかけと子どもたちにメッセージを」と求めかれ、「私は小学校3・4年生時の担任の若い先生から

勧められた『ロウソクの科学』という本を読んで 『昼休みに築山で虫取りをする子どもたち』興味をもったことがこの道（化学者）へ進むきっかけになった。」と述べられ、子どもたちには「夢中になれるものを見つけて、それを頑張ることがいい。」と言われました。

秋晴れのこの日（10月10日）、師がく訪問で訪れた名木野小学校で、夢中になって虫取りをする子どもたちを眺めながら、吉野彰氏の言葉を思い出して「将来の昆虫博士たちの誕生だなあ」と、私は一人でほっこりとした良い気持ちになりました。

さて、師がくの訪問は「先生方の授業力アップ」のお手伝いをするためです。先生方から求められた、本授業で「指導を受けたいこと」をできるだけ分かり易く伝えるために、私が一番に心がけていること（授業を見る視点）は、子どもたちの表情や体の動きです。このため、授業を参観する時、できるだけ教室の前方やサイド（窓側・廊下側）から見せてもらいます。教室の後方からは見えない、一人一人の表情を観察します。授業後に、授業者と授業を振り返る時、この子どもたちの表情や動きで、気になった子どもの姿で伝えます。当然、授業者の動きや表情もよく見ます。授業者がいい表情で授業を行う学級は、子どもたちもいい表情を多く見せてくれます。私が憧れた教師は「毎朝鏡の前で笑顔を作り、いい表情を確かめて授業に臨んだ」と言っていました。授業者がいい表情で授業をすれば、子どもたちはきっとその教科が好きになり、夢中になって学ぶことが大好きになると思います。教師のいい表情で、学ぶことが大好きな子どもたちにしていきたいと思います。（こ）



<4時から夢塾> - 特別支援学級の運営の仕方 -

第10回の「4時から夢塾」は9月4日(水)に、見附特別支援学校の石黒英巳校長先生から「特別支援学級の運営の仕方」をテーマにして、ご指導をいただいた。今回は、事前に各学校から「教えてほしいこと」「尋ねてみたいこと」を出してもらい、それに答える形の講座であった。出された質問が様々あり、指導時間の45分で収まりきれないほど多くの資料をもとに、多岐にわたるご指導を頂いた。講座を簡単に紹介する。



1 身につけてほしいこと

- ・叱るよりもほめるが基本
 - ・子どもの良さを見つける力
 - ・少しの伸びを感じる感性
 - ・コミュニケーション能力(交渉力)
 - ・保護者の話を親身に聴く姿勢
 - ・TTでの授業力等
- *特別支援教育に答えはない。小さなヒントでも、自分に置き換える柔軟性や豊かな発想が必要

2 特別支援学級担任にお願いしたいこと

- ・通常の学級担任との連携を密に
- ・特別支援学級ガイドブックをよく読んで
- ・支援を減らす通常の学級へ戻すことを意識して
- ・保護者と丁寧な相談を
- ・豊かな人間性と柔軟な発想を
- ・自立活動を理解し、実践を
- ・自閉症や発達障害の特性の理解を

3 管理職・教務主任にお願いしたいこと

- ・全校体制で取り組む特別支援教育を
- ・特別支援学級の運営・教育課程づくりを
- ・特別支援学級担任の実践的な研修を(見附特別支援学校の地域支援の活用をしてほしい)

4 通常の学級(交流学級)担任にお願いしたいこと

- ・特支児童の学習予定を立てるため一週間、一日の日程を知らせて
- ・連携して児童を育てていくこと
- ・学級全員の児童の正しい理解と助け合いの気持ちを育てていくこと等

5 年度当初

- ・保護者との個別面談・・・関係機関からの資料や検査結果等を参考に面談を進め、保護者から詳しい情報を得る
- ・特別支援教育の紹介・・・特支在籍児童も通常の学級の大切な子どもであり、担任であることを自覚してもらう
- ・時間表の調整
- ・正しい「受容」を心がける
- ・教師が主導権をとる
- ・勝負どころを見逃さない・・・一貫した態度で正しい言動を伝えていくこと
- ・身辺処理能力を高める
- ・学習指導を進める・・・UDLを意識しながら誰もが分かり易い授業
- ・家庭学習の習慣化を図る
- ・学習のUDL・・・視覚的支援を用いる等
- ・家事の習慣化を図る

6 年間を通して行っていること

- ・保護者への支援・・・保護者同士の繋がりを
- ・面談時の配慮事項・・・複数で面談を
- ・保護者の労に耳を傾け一緒になって考える
- ・通常の学級担任への支援・・・困っている担任を孤立させない

7 最後に

- ・失敗を恐れず、いろいろ試してみる
- ・実態把握のために検査は必須条件である。検査の仕方を学び、自分のものにする
- ・経験者にどんどん質問や意見交換をすること

<参加者の声>

- ・ガイドラインや自立活動等、内容が豊富だったが、ポイントが絞られて興味深い指導を頂いた。
- ・特別支援学級の運営の仕方について、様々な立場の役割を知ることができて有り難かった。
- ・保護者との関わり方について、振り返りながら聴いた。通常の担任へ伝えることも大切と思った。
- ・教科学習をしながら、自立活動を行うことが勉強になった。今回の続きを教えてください。



<4時から夢塾> - 考え議論する道徳授業 -

第11回の「4時から夢塾」を10月9日（水）に、三条市教育委員会教育センターの捧信之センター長から、四つの授業実践をもとにして『考え、議論する道徳教育～一人一人の価値観を育む授業へ』のご指導を頂いた。



- 1 学習指導要領解説「特別な教科 道徳編」より
 - ・考え、議論する道徳授業とは、「価値を教える」から「一人一人の価値観を育む」ことであり、すなわち「主体的・対話的で深い学び」のある道徳授業を行うことである。
- 2 道徳的価値の理解・・・これには「価値理解」「人間理解」「他者理解」の三つがある。
- 3 道徳性を養う・・・道徳性は①道徳的な判断力 ②道徳的心情 ③道徳的実践意欲と態度がある。
- 4 道徳科の指導方法
 - ・「登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の三つの学習は、ばらばらではなく、絡み合っていて行われて「質の高い多様な指導方法」となる。
- 5 主体的・対話的で深い学び
 - ・子どもの問題意識を動かす授業にすること。そのために、教師は子どもが学習問題を生み出せるように、最大限の努力をすること。そして、子どもと共に学習問題を生み出せるように努めること。



- 6 道徳科の評価
 - ・学習状況や、道徳性に係わる成長の評価をすること。道徳性が養われたか否かは、容易に判断はできない。「～な心情が育った 態度が育った ～な価値が理解できた」等は、言えないこと。
 - ・評価とは、子ども理解を深める営みであり、認め、励ます個人内評価をすること。
- 7 主体的・対話的で深い学びを具現する最も基板となるもの
 - ・教師と子ども、子どもと子ども同士の信頼関係であり、温かいまなざしの中で授業が深みを増す。
- 8 豊かで多様な学びに向けて・・・道徳科は価値ある心の体験をする時間
 - ・道徳科は自己の内面を見つめ、迷い悩む時間→漢方薬のようにじわじわきいてくる風土をつくる。
- 9 まとめ・・・子ども自身が道徳の授業って面白いと思うからこそ、価値観は育まれる。
 - ・考え、議論する道徳への質的転換を図ることは、「思慮深い人間の育成」をめざすものである。

<参加者の声>

- ・実践例を多く示して頂き、子どもたちが深く考えるための発問の仕方など分かり易かった。
- ・教師と子ども、子ども同士の信頼関係が大切であるということ、改めて強く感じた。
- ・子どもたちを、どう教材に引き込むかと悩むことが多かったが、提示物がとても参考になった。
- ・子どもの思いを大切にすることが大事だと再認識をした。実践に基づいたお話が魅力的だった。
- ・評価について、学習状況や道徳性に係わる成長の様子を見取ることが、良いことと理解した。
- ・自己内対話ができるよう、子どもたちが迷い悩める課題設定、そして展開を考えていきたい。



<科学教育部> 10月の活動報告

単元別研修会

小4「水の3つのすがた」 10月10日（木）

○安全面に細心の注意



小学校の理科の授業で、アルコールランプやガスコンロを使って、水を加熱するという初めて炎を扱う単元になります。まずは、安全に実験を行うことが一番大切です。そのため教師は、児童が炎を扱う上で、起こりうることを把握していることが必要になります。また、炎を扱うことに慣れない子どもたちは、実験に時間がかかるなどして、授業の中でつかませたい内容までたどり着けないこともあります。実験のポイントを押さえた指導が必要です。実験の安全面や、正確性などを確実に指導していくことが求められます。

○素朴概念から科学的概念へ

子どもは生活の中で、水に関する素朴概念をもっています。素朴概念は「人が自身の日常経験に基づいて得る概念」とされています。日常生活の中で、自分なりに考えて獲得するものなのですが、科学的に十分ではない誤りを含んだ状態で、概念を形成していることが多いのです。例えば、この単元では「沸騰したときに出てきた泡は空気だ!」と考える児童がいます。実際には、空気ではなく水蒸気が出てくるのですが、一度思い込んでいるものに対して、考え方を更新していくのは容易ではありません。この単元では、様々な実験を行い、実感を伴う学びの場を提供してあげることが、正しい科学的概念を身につけることにつながります。そこで、今回の研修では「沸騰したときに出てきた泡の正体」を調べるための実験を、いくつか紹介をしました。見た目や、音の変化など様々な視点から、子どもが納得のいく結論を導けるように指導していきたいものです。



水蒸気の泡を集める実験



空気の泡を集める実験

小3「明かりをつけよう」 10月17日（木）

「電気」について初めて学習するのが、小学3年生です。教科書では、豆電球の構造についても記されており、「導線1本・豆電球・電池で明かりを点灯させることができる」とあります。電気の学習は、小学校では、3年生～6年生で行い、中学校でも2年生になって行います。しかし、上記の課題は、中学生でもなかなかできません。教科書で見るだけでなく、子どもが試行錯誤しながら実験を行うことで、実感を伴った理解につながってきます。様々な体験をさせてあげたいものです。



導線1本での点灯

要請訪問・ゲストティーチャー

田井小学校科学クラブ

10月23日（水）

「巨大シャボン玉づくり」



ふしぎ発見！科学教室～キッズフェスティバルにて～

「ふしぎ発見！科学教室」 9月28日（土） 見附市中央公民館

今年度の「ふしぎ発見！科学教室」も、中央公民館主催の「キッズフェスティバル」の一つのブースとして開催しました。行った科学体験は二つです。「液体窒素～-196℃の世界～」と「紙コップジャイロロケットづくり」です。



液体窒素の実験は、見附中学校の籠島晋先生に実施してもらいました。特に驚きがあったのは二つです。一つはゴムボールを-196℃で凍らせて落下させると、ガラスみたいに粉々に砕ける現象です。もう一つは普段、私たちの生活に必要な気体である酸素を液体にすると青い色をしていることや、液体酸素（およそ-160℃）の中でも酸素が気化し、線香の火が燃え続けることです。なかなか日常では体験できないものです。科学の不思議を感じることができました。

見附市児童生徒科学研究発表会

10月4日（金）に行った「第55回見附市児童生徒科学研究発表会」には、たくさんの保護者の方からも参観していただく中で、素晴らしい発表が行われました。審査に協力をいただいた先生方から、「研究の質が上がっている」という声も多くありました。ご指導いただいた先生方、ありがとうございました。



学校名	学年	研究者氏名	研究題目
名木野小学校	小3	山井 杏莉	よく回るプロペラについて
今町小学校	小3	石田 悠真	植物の水のすい方の研究
今町小学校	小4	関 美惺	新潟県の海水の研究
見附小学校	小6	佐野 甘奈	よくはねるゴムボールの作り方～パート4～
西中学校	中2	渡邊 侑樹	植物から採れるデンプンの性質の比較

上記5つの作品を「いきいきわくわく科学賞2019」に推薦しました！

今後の活動予定

<単元別研修>

①小6 「水溶液の性質」	11月26日（木） 15:45～16:45
--------------	-----------------------

<要請研修>

①田井小学校 科学クラブ	11月13日（水） 15:00～15:45
②今町小学校 科学クラブ	11月14日（木） 14:50～15:35
③本所保育園	11月7日（木） 10:00～11:00

<土曜子ども科学教室>

第4回「サインペンの色を分けよう」	11月16日（土） 10:00～11:30
-------------------	-----------------------



